

## 現代における個の〈代替不可能性〉を保証する共生のあり方について

On the symbiosism which guarantees the "irreplaceability" of the individual in the modern era

立命館アジア太平洋大学 清家久美

## 1. 研究の背景と目的、方法論

本研究の目的は、現代社会において個の〈代替不可能性〉、かけがえのなさほどのようなコミュニティ／社会／共生のあり方であれば保証できるかということをはっきりとすることを目的とする。

小田亮は「〈私〉のかけがえのなさは、『普遍性-単独性』の軸において生まれるのに対して、社会システムは交換可能で比較可能な『一般性-特殊性』の軸によって組み立てられている。したがって、個々人のかけがえのなさ—交換不能性、代替不可能性、単独性、唯一性—を支えるためには、その底に『普遍性-単独性』の層が重なっているような非同一的な共同体が必要とされる」[小田 2009]と言う。彼は同時に、レヴィ=ストロースの「真正性の水準」とは、500人ぐらいの社会は、そこに「真正性」の条件が存在するという議論を、「3万の人間は、500人と同じやり方では一つの社会を構成することはできない」[レヴィ=ストロース 1972]ということから、社会を対面的なコミュニケーションが基本となる「真正な社会」と、後発のメディア、法、貨幣など一般化された媒体に媒介された間接的なコミュニケーションによる大規模な「非真性な(まがいもの)社会」に区分する単純な指標を用いることによって主張する。後者においては「包括的な経験、つまり、一人の人間が他の一人によって具体的に理解されるということにもとづいてはいない」関係性において成立しており、具体的な関係の複雑さは縮減され、一般化され、一方前者は他の一人によって具体的に理解され、単独性、代替不可能性に結びついていく。この議論は本質主義的な議論として批判もなされるが、本論ではそうした視点ではなく、小田の議論を批判的に検討しつつ「真正な社会」すなわち、個の〈代替不可能性〉を保証する共生のあり方について、その可能性を理論的に模索することを目的とする。

## 2. 方法

その考察方法としては、現代における共生のあり方を模索するコミュニティを参照かつ対象にしつつ、小田のドゥルーズの議論における反復／単独性についての再検討、さらに彼の援用するハイデガー、ナンシー、レヴィナスなどのいくつかの理論的枠組を再検討しつつ、個の〈代替不可能性〉を保証する共生の可能性を理論的に模索する。

## 3. 結論

本研究は、基本的に理論的に探ることを主とするが、その際に参照する共生のあり方を模索するコミュニティの特徴的な点を挙げると以下である。

1) 彼らは単独の集落よりは大きく、市や町よりも小さな範囲をもつ集落集合体を活動基盤として想定している。2) 土地に媒介された当該コミュニティの特徴は、生業やその土地における共生によって、彼ら独自のコミュニティの規範を共有している。3) 農村での生活は、その環境が五感の使用を要請し、結果として人間としての生存感覚を回復させる。以上のような特殊性をもつコミュニティを参照しつつ、個の〈代替不可能性〉を保証する共生のあり方について以下のように結論付けられる、①土地を媒介にしたアイデンティフィケーション ②土地を媒介にしたコミュニケーション ③土地を媒介にした労働 ④レヴィナスの議論に依拠し、他者が唯一代替不可能であるのは、絶対不可侵である他者性において尊重されることによる、唯一の他人に対する責任が代替不可能であることにおいて代替不可能性を獲得する。すなわち、個の〈代替不可能性〉を保証する共生のあり方は他者への関わりなしに実現しえない。

## 4. 参考文献

- C.Levi-Strauss,1962/1972『構造人類学』みすず書房。  
 M.Heidegger,1994/1927『存在と時間』筑摩書房。  
 G.Deleuze,1992/1968『差異と反復 上・下』上、下、河出書房新社。  
 J=L.Nancy,2001『無為の共同体』以文社,2005『複数にして単数の存在』松籟社。  
 E.Levias,2005,2006『全体性と無限 上・下』岩波書店  
 1993『われわれのあいだで -<他者に向けて思考すること>をめぐる試論』法政大学出版社  
 J.Habermas,1981,『Theorie des kommunikativen Handelns Shuhkamp Verlag.1985-7』『コミュニケーション的行為の理論上中下』未来社。  
 ,1991,『Erlauterungen zur Diskursethik Shhrkamp Verlag.2005』『討議倫理』法政大学出版社。  
 小田亮,2009『グローカリゼーションと共同性』成城大学民俗学研究所グローバル研究センター、その他。